

自治労きよと

発行所・自治労京都府本部 〒604-0867 京都市中京区丸太町通烏丸西入北側N・H・Kビル2F
TEL.075-252-5932・FAX.075-231-4918 発行人・岡本哲也 編集人・森本尚秀
定価 一部10円 本紙の購読料は組合費に含まれています。

11/15・12/1
2023
第869号

ご意見をお寄せください

自治労京都府本部では、組合員のみならずのご意見を募集しています。組合のこと、機関紙のことなど、たくさんのご意見をお待ちしています。
TEL.075-252-5932 FAX.075-231-4918
E-mail: jichiro@jichiro-kyoto.gr.jp
http://www.jichiro-kyoto.gr.jp/



川田翔子さん初当選 八幡市長選挙

11月12日投票開票の八幡市長選挙で、府本部が推薦する川田翔子さん(33歳・無所属)が初めての当選を果たした。投票率は43・67%、1万516票を獲得した。川田さんは元京都府職員で自治労の元組合員。選挙戦では京都府の西脇知事との連携を強調し、最年少の女性市長となった。「市民としっかりと対話を重ね、新しい目で一歩前に進めていける市政にしたい」と決意を表明した。ご支援ご協力いただいたすべての単組・組合員に感謝申し上げます。



▲エンゲージメントを高める工夫を考える参加者

Jichiro Kyoto2024
ユニオンカレッジ VOL.1

職場・個人が イキイキとするために

新しい時代のリーダー&助け合いから始まる共済集会

府本部は10月28日、京都ホテルオークラで「新しい時代のリーダー&助け合いから始まる共済集会」を開催。10単組42人が参加した。この取り組みは、府本部で新たに始めた「ユニオンカレッジ」やりたいたいことを組合で実現しよう」の第1回目となる。

冒頭、川戸副委員長より「自治労全体の課題は組織強化と次世代育成。労働組合の知識を学ぶと同時に単組を超えた人脈づくりを通じて単組運動の活性化に繋げてほしい」とユニオンカレッジの開校式を兼ねてあいさつ。講演①では、全労済自治労共済長野県支部の安土功一さんを招き、「今さら聞けないじじいさようさいうって何?」と題

した講演を受けた。講師は「一組員の世帯構成や関心事が変化しライフプランが多様化している中でも、労働者として賃金を失うことは生活に直結する。収入を失った時に備えてどれだけ無駄なく保障を用意すべきかが大切」と説明。「じじい共済は組合員が作った組合員のための制度であるので、組合員なら使うべきだ」と訴えた。



▲安土功一さん

午後からは増永書記長による基調提起の後、講演②として、明星大学特任教授の平塚大輔さんを講師に「労働活動におけるリーダーシップ」職場・個人がイキイキするための取り組み」と題した講演を受けた。

現場からの声を解消する『現場不満要因除去機能』や将来に向けての『政策立案や実行機能』が必要であり、既成概念にとらわれず視野を広げて現状の枠を突き破る取り組みが重要」と話した。グループワークでは「組合役員のコミュニケーションに必要な3つの基本スキルを磨くため、インタビュした相手をして他の参加者に紹介する『他己紹介』を実践。『お互いの信頼関係を構築していくためには、相手をその気にさせる質問力を鍛えることが大事。質問を工夫すれば相手の情報収集や関係構築、相手の気持ちを動かすことができる』と話した。

また「組合員がイキイキと働くためにエンゲージメントを高める工夫について考えるワークでは、具体的なアイデアをポストイットに記入し、有効度や実現度に分類した模造紙に貼って集約。それを他班のアイデアと比較し問題解決に至る課題の整理方法を学んだ。講師は、「個人ニーズがバラバラの今、賃上げ一辺倒の組合活動では難しい。これからの労働組合の役割は、個々の現場の不満を解消すると同時に、たとえ組合や組合員にデメリットがあっても

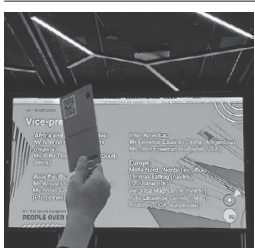
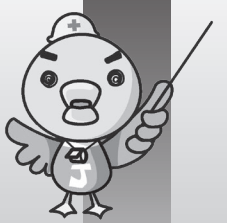


▲平塚大輔さん

将来に向けた政策を立案し、社会正義を貫いて当局に対する牽制をすること。だからこそ既存の枠組みで人や組織を管理するマネジメント能力以上に、新たな運動や政策のビジョンをもち、それを志向し立案するリーダーシップが重要。どんな経緯でも組合役員になったからには、その経験を自身のスキルアップに活かしてもらいたい」と力説した。

参加者からは「実践的なワークもあり大変有意義な時間だった。今後の組合活動に活かしたい」との声が寄せられた。近年のガソリン価格の高騰に驚いている、ひと昔前はコンビニで売っている水よりも安いと言われていたものだ。運転免許を取得した頃、30年後にはガソリンは枯渇して地球上からなくなると何かで見たことがある。今でも毎日のようにバイクや自動車運転する生活を続ける私に、とある朗報が。娘が某石油会社に就職したところ家族カードなるものが発行された、関連施設の利用料金が社員家族価格となるお得ないわゆる福利厚生無双カードのようなものだろうか。もちろん関連のガソリンスタンドでも利用可能となるためありがたい活用させてもらうことに。▼先日、たまには自動車も満タンにしてやろうと欲張って給油口のツライち辺りまで調子に乗って入れたところ給油キャップがないことに気づく。非常に激しく悩んだ末に判明したのは、キャップはその場で失くしたのではなごうやら以前に別の場所ですら紛失していたようだ。▼フタの開け閉めすら記憶になく、そんな時に限って超満タンにしちゃう自分よ、負けずに頑張れ。(目出)

現業職場からの労働災害を一掃する
12・1職場集会
すべての職場で
取り組みを進めよう



報告 PSI世界大会inジュネーブ 世界の仲間とともに

10月14日から18日まで、スイスジュネーブで5年ぶりに開催されたPSI(世界公務労協)の大会に日本の代議員として参加した。世界各国の労働組合の仲間が、自国の様々な事情を乗り越えて参加していた。ロシアに

よるウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエルの紛争などで日々犠牲者が出ている、会議冒頭は連日黙とうで始まった。気候変動により貧困に陥る国、それを引き起こしている先進国の責任が問われていること、多様性を認め合うLGBTQの問題など、様々な課題に対して公共サービスの労働組合が連携して立ち向かって行こうという方針が承認された。

また、ケア労働者に関する議題では、世界中で唯一、消防職員の労働基

日本から課題もあった。日本は先進国の中で

本権(団結権)が認められていない。すでにILO(世界労働機関)から日本政府に是正勧告されているが、未だに叶えられておらず日本から世界の仲間へ連帯を訴えた。これに対して韓国をはじめとする複数の国から支援の声が上がり、とても感動的だった。日本では中々感じられないことを世界の仲間と

清掃職場の仲間で結集を



府本部現評第13回清掃集会

府本部現評清掃部会は10月21日、職員会館かもがわで第13回清掃集会を開催。冒頭、田村部長から「直営、委託問わず清掃職場を取り巻く環境は厳しいが、清掃部会に結集して取り組みを進めよう」とあいさつ。続いて来賓の岡本府本部委員長、自治体議員連合から山本府議より激励のあいさつを受けた。

その後、奥本事務局長より活動報告、運動方針の中間の結集を訴えた。

府本部現評清掃部会は、満場一致で承認され部長には奥村将真さん(八幡市職労)が選出された。続いて、中川本部現評清掃部長より全国の情勢報告を受けた。「全国の清掃職場では、人員不足や民間委託、大規模災害や循環型社会に向けた業務の多様化など、課題は山積している。引き続き中央本部から国に改善を求めたい」と述べ、清掃の中間の結集を訴えた。

他単組の仲間と交流



青年部がボウリング交流会

府本部青年部は10月14日(土)、ラウンドワン京都河原町店で組合員同士の交流を目的にボウリング交流会を開催。9単組34人(男性25人・女性9人)が参加した。

3人1組でグループ分けを行った後、プレイをしている早い段階で打ち解け合うことができ、順位がモニターで表示されるので上位を狙っている参加者は意識しながら各レーンでボウリングを楽しんだ。

自尊と自律を育てる保育とは



府本部社福評が京都保育集会

府本部社福評は8月6日、ゆめりあうじで、2023京都保育集会を開催した。

冒頭、寺田議長があいさつした。次にNPO法人国際臨床保育研究所の勝山結夢さんが「子どもの自尊と自律を育てる保育とは」と題して講演した。勝山さんは「保育とは生涯の学びの出発点である」として、保育環境を整えることが「自尊」と「自律」を育てるために重要だと述べた。

「保育環境の子どもの居心地感はどうでしょう? ワクワクするポイント、仕掛けはありますか?」と参加者に問うた上で、子どもが主体的に遊びを選択し、主体的に学ぶ魅力的な空間を作ることが「自尊」と「自律」を育てるために重要だと述べた。

「大切なことは、大人が何を教えるようにするのかではなく、子どもが主体的に選択した結果、何ができるようにするのかだ。それがこれから先の不確定な世の中を生き抜く力になる」と話した。

講演後にはグループに分かれて、職場で工夫していることや人員配置、人員不足や人材育成の悩み、アフターコロナや酷暑での保育、年休や生理休暇介護休暇の取得、時差勤務や日々の休憩の取り方など、それぞれの保育、職場環境について意見交換を行った。



国際連帯カンパにご協力を

自治労の「国際連帯救援カンパ」は1991年に始まり、これまで難民救援や児童労働禁止のキャンペーン、途上国の子どもたちの生活と教育の支援などに活用してきた。

2024年度のテーマは「どこで生きることにしても 子どもたちが学べる場所を」。スーダンでの紛争、ミャンマーでの国軍による市民弾圧、ロシア軍によるウクライナ侵攻により、多くの人が生まれた土地や祖国を追われ、移住や越境を余儀なくされている。特にミャンマーにおいては、国境沿いの国軍による砲撃の激化、長雨による洪水と冠水でタイ国境沿いに逃れる子どもたちが急増しており、移住先の教室やスペース、食費の不足、衛生環境が深刻な状況になっている。ひとりでも多くの子どもたちが学ぶ機会と場所が提供できるよう、各単組・組合員のみならず、心のかもったカンパへのご協力をお願いしたい。

500円
で買えるもの

スーダンで
教科書 10冊

ミャンマーで
えんぴつ 10本
A4ノット 10冊

ウクライナで
18色えんぴつ 1セット
ノート 1冊
ボールペン 2本

2023年度に寄せられた国際連帯救援カンパは44,224,527円となりました。

連合「愛のカンパ」	1,000万円
エフエフジャパンの活動支援金	1,300万円
トルコ・シリア地震に対する救援カンパ	330万円
フィリピン移住労働者支援	150万円
アムネスティ・インターナショナルへの支援	150万円
JVCのスーダン紛争被災民支援	50万円
ミャンマーの民主化支援	100万円
広報・事務費	1,266,100円

(合計年度と運動の取り組み期間が一致していないため、HPで公開している数字とズレがあります)

相手に達するまでが「伝達」



府内学童保育・児童館職員・保育士集会

府本部は10月29日、第19回京都府内学童保育・児童館職員・保育士集会を宇治市内で開催した。4年ぶりに対面での開催となった今集会は、株式会社インタースペース富永和也さんを講師に招き、「保育現場における円滑なコミュニケーション・働く仲間と保護者との良好な関係を築くには」と題して学習した。

参加者は3単組53名。講師は「子ども、指導員、保護者など多くの人間関係の中でコミュニケーションはとても大事なツール。それによって信頼関係の構築につながり、その信頼関係が保育の質の向上につながる。仕事を円滑に進めるため、また、子どもたちが健全に育つよう、働く仲間とのコミュニケーションをとり連携することが大事。保護者とのコミュニケーションでは、保育現場と家庭状況の情報交換や保育における共通認識を持つことが大切だと説明。また、「伝達は相手に達して初めて『伝達』であり、達するまでが伝える側の責任。コミュニケーションをとるニーズや目的は自分側にある」と力説した。講義後半には、グループワークで事例ごとに意見交換を実施した。

最後に、「コミュニケーションの中で相手に『愛』を伝えられるかが基本。コミュニケーションをどうする相手も愛であり信頼関係の構築になる」ということを学んだ。

10th Anniversary

自治労共済生協とこくみん共済 coop は、2023年6月で統合して10周年を迎えました。この度10周年を節目として、キャンペーンを実施します!

団体生命共済 新規加入キャンペーン

“これからもずっとそばに” 助け合いを届けよう!

申込期間 2023年10月30日～2023年12月15日

申込期間中に「団体生命共済」へ新規加入した方にプレゼント!

ワンマイル ジョルダー ポーチ

組合員本人には!

ハッピーちゃん 絆創膏& ミニタオルセット

配偶者・お子さまには!

さらに「個人賠償責任共済」を新規付帯した組合員本人には「木製しおりスケール」をプレゼント!

こくみん共済 NEWS 5123V050

契約にあたってはパンフレットをご覧ください。不明な点があれば、まず組合にご連絡ください。

こくみん共済(全労済) 全国労働者共済生活協同組合連合会

自治労共済 推進本部

全日本自治体労働者共済生活協同組合

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。